

Press Release

2020.1.31

岩永忠すけ、鈴木哲生、二艘木洋行**「ダッグアウトへおかえり」**

-

2020年2月22日(土) - 3月22日(日) 11:00-19:00 月火祝 休廊
オープニングレセプション: 2月22日(土) 18:00-20:00

-

タリオンギャラリーでは、岩永忠すけ、鈴木哲生、二艘木洋行による展覧会「ダッグアウトへおかえり」展を開催いたします。是非ともご覧下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

油彩によるストロークの力動と色覚が混交する抽象絵画で知られる岩永忠すけは、2000年頃より美術の領域において多くの注目を集める一方で、2007年には漫画「TAKIJIRO」の発表、またロックバンド「真美鳥」の活動も20年近くにわたって行うなど、フィールドの枠を超えて表現を続けている。グラフィックデザインを専門とする鈴木哲生は、自らの目と指先を通して、さまざまな意匠やアイデアを絶え間なく描きとめては血肉化し、ビジュアルデザインやロゴメイキングにおいて多様な企業団体から個人プロジェクトまで数多く手がけ、とくに文字やフォントの機能を保ちながら相貌を一変させるレタリングの方法論は異彩を放つ。二艘木洋行は、2000年頃に広まり今や消滅しつつあるインターネット上のお絵描きツールを愛用しながら、デジタルな描画環境に塗りや擦れなどのアナログなエラーを呼び込み、あるいは逆にペンやマーカー、油彩などの描画にデジタルなレイヤーやスキームを挿入することで、新たな絵画のクオリティーを追求している。

ダッグアウトとは、野球場でグラウンドに出ていない選手や監督の控え席のことで、地面より一段低くつくられている。もともと戦場で敵の砲弾を避けるために地面に掘った待避壕など、複数の人間が入れるくらいの大きさの、くりかた場所を意味する。グラウンドにいてもダッグアウトにいても、彼らは等しく競技のプレイヤーであり、ゲームは続いていく。

本展は、美術とさまざまな表現、生活や人生の生業を地続きに行き来する作家を迎え、私たちの生活と創造の結びつきについて焦点を当てるものである。



岩永忠すけ | MEGALITH | 1999~2018 | 91.6x73.3cm

岩永忠すけ Tadasuke Iwanaga

1979年佐賀県生まれ。佐賀県在住。

近年の主な個展に「Evacuation」Satoko Oe Contemporary(2017/東京)、「LISTE09」booth of magical ARTROOM(2009/バーゼル)、「空のユーレイ 石の刀 檜の棒」T&S GALLERY(2008/東京)、「TAKIJIRO」magical ARTROOM(2007/東京)、「返事、無言、」ギャラリー覚(2004/東京)、switch point(2003/東京)、T&S GALLERY(2002/東京)など。

近年の主なグループ展に「その先へ -beyond the reasons」Komagome SOKO(2019/東京)、「summer show」Satoko Oe Contemporary(2018/東京)、「キャラバン隊 美術部 第五回展覧会 岩永忠すけ 中村正義 吉川民仁」なびす画廊(2016/東京)、「絵画の輪郭」シュウゴアーツ(2014/東京)、「絵画の在りか」東京オペラシティ アートギャラリー(2014/東京)、「THE CRIMSON SUN 田口和奈 岩永忠すけ」シュウゴアーツ(2013/東京)、「絵画の庭 ゼロ年代日本の地平から」国立国際美術館(2010/大阪)など。

2001年に結成されたロックバンド「真美鳥」にて数多くのライブ活動を行う他、漫画『TAKIJIRO』を発表するなど他ジャンルで活躍している。



岩永忠すけ | heptagram | 2013 | キャンバスに油彩 | 186.3 × 227.5 × 5 cm

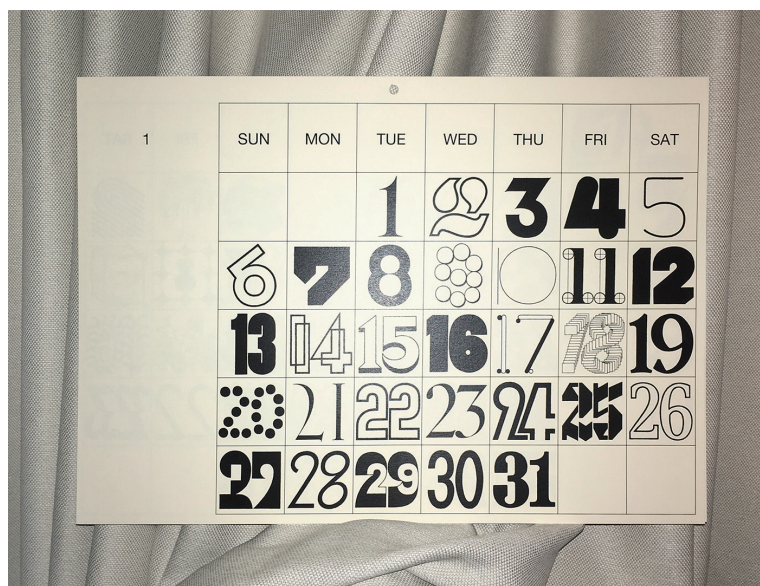


岩永忠すけ | 「summer show」 Satoko Oe Contemporary での展示風景 | 2016

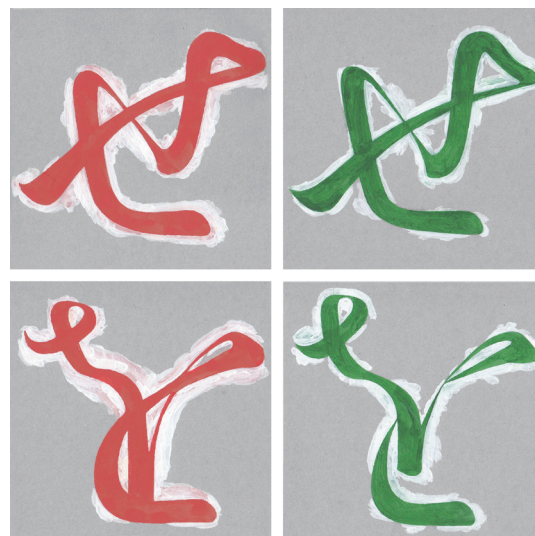
鈴木哲生 Tezzo Suzuki

1989年神奈川県生まれ。2013年東京芸術大学美術学部デザイン科卒業、2015年KABKデン・ハーグ王立美術アカデミー タイプメディア修士 課程修了。

主な展覧会に、「Typojanchi 2019: 6th International Typography Biennale design festival」Culture Station Seoul 284(2019/ソウル)、「貫く棒の如きもの」タリオンギャラリー(2019/東京)、「光るグラフィック展2」クリエイションギャラリーG8 (2019/東京)、「富士山展1.0」AWAJI Cafe & Gallery (2018/東京)、「TRANSBOOKS」book fair/TAM COWORKING TOKYO(2017/東京)、「会議」Earth & Salt (2016/東京)、「Exhibition Font Thesis」Галерея Промграфика (2015/モスクワ)、「大恐竜 博」ホトリ (2015/東京)、「KABK Graduation Festival 2015」Royal Academy of Art The Hague (2015/ハーグ)、「Circle X 2」路地と人(2014/東京)、「思いで」Earth & Salt (2014/東京)など。



鈴木哲生 | カレンダー | 2019 | 2013年より制作・販売



鈴木哲生 | 手習 | 2020 | 厚紙、油性絵具、水性絵具 | 各 12.4x12.4cm

二艘木洋行 Hiroyuki Nisougi

1983年山口県生まれ。

近年の主な展覧会に、「East Asia Culture City 2019《3^x = ∞ ound Town》」仁川アートプラットフォーム (2019/仁川、韓国)、「二艘木洋行さんと山本直輝さんの作品をgnck先生をお呼びして検証する展覧会」パーブルームギャラリー (2019/東京)、「新作展」TALION GALLERY (2018/東京)、「た・・ 勃て・!・ 勃つんだ英樹ー!」bar星男(2017/東京)、「大ポスター展」TALION GALLERY (2016/東京)、「ニセ・ザ・チョ イス」ビリケンギャラリー (2015/東京)、「パーブルーム大学II」熊本市立現代美術館 (2015/熊本)、「VOCA 現代美術の展望」上野の森美術館 (2014/東京)、「光るグラフィック」creation gallery 8 (2014/東京)、「プロミスフレンズニアレストネイバーランド前」TALION GALLERY (2014/東京)、「ii tenki」WILLEM BAARS PROJECTS (2013/アムステルダム)、「であ、しゅとるむ」名古屋市民ギャラリー矢田 (2013/愛知)、「MOBILIS IN MOBILI -交錯する現在-」コーポ北加賀屋 (2013/大阪)、「キュレーターからのメッセージ 2012 現代絵画のいま」兵庫県立美術館 (2012/兵庫)、「インターネット アート これから」NTTインターコミュニケーション・センター (2012/東京)など。



二艘木洋行 | 梨 | 2005 | お絵描き掲示板 | 900x900pixel



二艘木洋行 | 梨 | 2014 | ペン、カーボン紙、スプレー、インクジェットプリント、紙 | 21 x 14.8 cm

—
本展覧会に関しまして貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸いです。掲載用写真の貸出、ご質問などございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

[展覧会概要]

展覧会名	ダッグアウトへおかえり
アーティスト	岩永忠すけ、鈴木哲生、二艘木洋行
会期	2020年2月22日(土) - 3月22日(日) 11:00-19:00 定休日：月・火・祝日
会場	TALION GALLERY 東京都豊島区目白2-2-1 B1
企画	上田剛史 (TALION GALLERY ディレクター)
協力	Satoko Oe Contemporary

[お問い合わせ]

TALION GALLERY 広報担当

Email: info@taliongallery.com Tel/Fax: 03-5927-9858

171-0037 東京都豊島区目白2-2-1 B1 URL: www.taliongallery.com